

豊中市地域包括支援センター外部評価表

○仕様書[4] 業務内容 ア) 介護予防ケアマネジメント業務について特に力を入れて取組んだことを記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 (地域包括支援センター運営協議会からの意見等)
1	介護予防ケアマネジメント業務（次のいずれかの視点を入れて取組んでください） ☐ 自立支援に資するプランになるよう、委託先の居宅介護支援事業所に対し、積極的なアプローチを実施している。 ☒ 高齢者の主体性を引き出すための工夫をしている。 ☒ リハビリ専門職に意見を求めるなど、生活能力の改善・維持・悪化の可能性を見極める視点を培っている。 ☐ 潜在的対象者の把握について工夫している。	【目標と具体的な取組み内容】 ・地域ケア個別会議を通じて育成された各専門職の強みを生かし、サロンや住民集いの場へのマッチングを行い、自立支援、介護予防に資する地域支援への協力を得、高齢者の意欲、主体性を引き出せるよう働きかけた。 ・地域ケア個別会議では、軽度者に限定せず、弁護士にも参加してもらい、自立支援やリスクマネジメント、狭間の支援について多職種で学ぶ機会として開催。	【取組進捗状況内容】 サロンや集いの場に専門職が関与し、住民や高齢者の主体性・意欲につなげられるよう留意されています。 【特に優れている点】 高齢者向け施設やマンション等へのアプローチを強化し、場の拡充につながられています。専門職が個々の有するノウハウを発揮することによって、自立支援へつなげられる働きかけが行われています。 【課題】 地域資源と福祉資源に限界がある中、地域住民や当事者の主体性と予防の促進に向けた活動の拡充による対応力向上に期待します。
		【課題】 ・高齢者人口の増加に伴い、専門職のみの対応では、対応できなくなっている。 ・高齢者がセルフケアを獲得、継続していくためには、個人の能力を引き出す関わりだけでは限界がある。	
		【改善の方策と次年度の取組み】 ・地域ケア個別会議を通じて育成された各専門職の強みを生かし、サロンや住民集いの場が持つ機能を強化していく。 ・相談対応初期から、介護予防やセルフケア、自立を意識した働きかけを行う。	

令和5年度 千里地域包括支援センター

○仕様書[4] 業務内容 イ) 総合相談支援及び権利擁護業務について特に力を入れて取組んだことを記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 (地域包括支援センター運営協議会からの意見等)
2	総合相談支援及び権利擁護業務（次のいずれかの視点を入れて取組んでください）	【目標と具体的な取組み内容】 ・千里障害者相談支援センターが地域包括支援センターと同圏域で設置されたことから、全校区の地域ケア会議に参加案内し、地域住民や事業者との連携を促進した。	【取組進捗状況内容】 全校区での地域ケア会議開催によって、障害者相談支援センターと地域住民・事業者間の連携につながられています。
	□自分らしく尊厳をもって生活することができるよう、自己決定・意思決定支援をしている。	【課題】 ・高齢者人口の増加、家庭環境の多様化により、課題が複雑化している。家庭の中に要援護者が複数人いる例も散見しており、関係機関との連携強化が必要。また、更なる職員の対応能力向上を目指す必要がある。	
	□予防的アプローチと地域づくりに取組んでいる。 ☒ 3 職種の専門性を活かしたチームアプローチを実施している。 ☒ 多機関と連携した重層的支援体制の構築に向けた取組みを実施している。	【改善の方策と次年度の取組み】 ・複合的な課題を抱える対象者の支援について、関係者間がお互いの強みや機能を知ったうえで連携できるよう、引き続き研修や地域ケア会議、ケース会議の場でのつなぎを担っていく。 ・様々な背景を持つ利用者に対し、想像力と柔軟性を持った対応ができるよう、包括3職種での協力、多機関、住民とも連携し、チームアプローチを行っていく。	
			【特に優れている点】 障害者相談支援センターが圏域内の地域ケア会議に参加することによって、初動の拡充や、より適切な支援に速やかにつなげていける体制の強化につながられています。 また、世代を超えたサロンや場の展開にも発展しています。
			【課題】 重層的支援が必要な対象者が増加する中、より一層の多職種連携による支援の拡充につなげていけるよう期待します。

令和 5 年度 千里地域包括支援センター

○仕様書[4] 業務内容 ウ) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務について特に力を入れて取組んだことを記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 (地域包括支援センター運営協議会からの意見等)
3	包括的・継続的ケアマネジメント支援業務（次のいずれかの視点を入れて取組んでください） ☐介護支援専門員等への個別ケアマネジメント支援において、地域包括支援センターが代わりに行うのではなく、介護支援専門員がより良い判断に到達できるよう助言等の支援している。 ☒地域アセスメントを実施し、地域の実情に応じた取組みを実施している。	【目標と具体的な取組み内容】 ・全校区、地域ケア会議の集合型開催。サロンやカフェなど定期的に参加し、切れ目のない関係づくりや支援体制づくりに努めた。 ・「お散歩マップ」から、住民要望に沿い、散歩コース・買い物コースの街歩きを実施。休憩場所や改修場所など確認、住民が歩きやすくなり、休みながらも歩き続けられる街であるよう介護予防を意識した街づくりを提案。	【取組進捗状況内容】 毎月、地域でのサロン 8 カ所、カフェ 4 カ所の活動が展開されています。毎月こども食堂も 2 カ所開催されています。 【特に優れている点】 高齢部会での情報共有や地域への広報によって、高齢者や地域住民の、こども食堂への参加もあり、幅広い世代の参画につながられています。住民の声を基に、お散歩マップの作成と活用、まちあるき報告の作成で、住民主体の活動拡充や意識向上にもつながられています。まちあるき報告を行う事によって、高齢者の視点に限らない、様々な住民目線での気づきも得られています。 【課題】 地域資源や建て替えといった、地域を変革させる状況が継続されており、限られた社会資源を活用して持続可能な支援体制の拡充に期待します。
		【課題】 ・ニュータウン建て替えは、継続されており、環境やコミュニティの変化や支援体制づくりへの対応が必要。	
		【改善の方策と次年度の取組み】 ・多機関や住民と連携し、環境変化への対応、支援体制づくりの検討や情報共有、協力、共同体制構築に努める。	

令和5年度 千里地域包括支援センター

○仕様書[4] 業務内容 エ) 一般介護予防事業を推進する取組みについて記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 (地域包括支援センター運営協議会からの意見等)
4	一般介護予防事業を推進する取組み（次のいずれかの視点を入れて取組んでください） ☒地域の通いの場づくりにおいて、地域及びグループの特性に応じた活動を、創意工夫しながら支援している。 ☒多様な地域活動や通いの場等と連携し、介護予防ネットワークの構築を推進している。 ☐体力測定会において短期集中サービス終了後のセルフケアの定着を推進しつつ、地域資源につなげるなど高齢者の社会参加を促す取組みを実施している。	【目標と具体的な取組み内容】 ・自主グループに向けSNSで定期健康情報提供、「お散歩マップ」全校区作成、配布。 ・新たにマンションや高齢者施設でとよなかパワーアップ体操の体験会を開催。 ・体力測定会参加者がセルフケアを継続できる環境づくりとして、とよなかパワーアップ自主グループや体験会、地域教室など、介護予防への取組みに活かせる場所を案内した。	【取組進捗状況内容】 自主グループへの情報提供を継続して行われています。全校区のお散歩マップが作成され、配布啓発されています。 【特に優れている点】 お散歩マップは、校区毎に社会資源やスポットがわかりやすく作成されており、興味や動機付けにつながりやすいよう配慮されています。 【課題】 地域の自主活動の継続と発展のために、専門職等からの機能フィードバックや継承等、自主活動の厚みを増していくことで、主体的な活動のさらなる発展につなげていけることを期待します。
		【課題】 ・要支援認定者の増加やサービス利用状況や医療・介護・福祉制度の限界などから、共生やセルフケアへの取組みについて、住民意識変革に向けて、より一層の働きかけや工夫が必要。	
		【改善の方策と次年度の取組み】 ・これまでの関係機関との連携、介護予防センターや保健所等との連携などを通じ、体操のみならず住民主体の活動など啓発していく。地域資源の更なる活用に取り組み、セルフケアの定着を図る。	

令和5年度 千里地域包括支援センター

○仕様書[4] 業務内容 オ) 認知症地域支援・ケア向上事業について特に力を入れて取組んだことを1つ記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 （地域包括支援センター運営協議会からの意見等）
5	認知症地域支援・ケア向上事業（次のいずれかの視点を入れて取組んでください） ☒ 認知症支援に関する個別事例において、嘱託医、初期集中支援チーム、疾患センター等の専門機関に相談する必要性を判断し、必要時相談できる体制を整えている。 ☒ 地域の実情に応じた方法により、認知症の人とその家族が参加する場で、本人の意欲向上と家族の介護負担感の軽減、認知症の人の在宅生活の安定を推進している。	【目標と具体的な取組み内容】 ・関係機関や住民と連携し、認知症カフェの立ち上げや支援、相談に対応した。上り旗を立て、支援者の意欲の向上や参加者への意識づけを行い、様々な機会を捉えて誰でも立ち寄れるカフェであることを広報した。 ・認知症サポート医のみならず地域の医療機関と連携し、必要な医療・介護に繋がるよう支援を行っている。 ・認知症サポーター養成講座の定期開催に向け、関係機関と協議し、今年度4校区で開催、次年度計画の目途を立てた。 【課題】 ・住民単位を基本に当事者や家族を支えるチームオレンジの育成がまだ不十分。 ・地域や圏域内事業所のキャラバンメイト、オレンジャーの活躍の場が確保できていない。 【改善の方策と次年度の取組み】 ・認知症サポーター養成講座の定期開催を通じて、キャラバンメイトの活動促進、認知症の理解の普及・啓発。認知症カフェの促進。	【取組進捗状況内容】 毎月4カ所のカフェ活動が行われています。 【特に優れている点】 カフェでは、当事者や家族等も加わり、当事者がサポート側にまわる場合もあります。カフェや集いの場は、認知症にこだわらず、幅広い年代の住民が気軽に集える場として展開することによって、啓発や相互理解の場として機能しています。 【課題】 認知症に留まらず、地域の互助と相互理解の促進につなげる活動や場の拡充に期待します。